



インストールの概要

このマニュアルは、スタンドアロン インストーラを使用したインストール プロセスについて説明します。Cisco Prime Service Catalog は、Service Catalog および Service Link という 2 つの必須コンポーネント アプリケーションと、Reporting というオプション コンポーネント アプリケーションで構成されます。

このインストールは WildFly アプリケーション サーバおよび WebLogic アプリケーション サーバでサポートされ、スタンドアロンとクラスタ セットアップのどちらでも設定できます。

この章の後続の項では、WildFly アプリケーション サーバと WebLogic アプリケーション サーバの両方のさまざまな展開トポロジについて説明します。

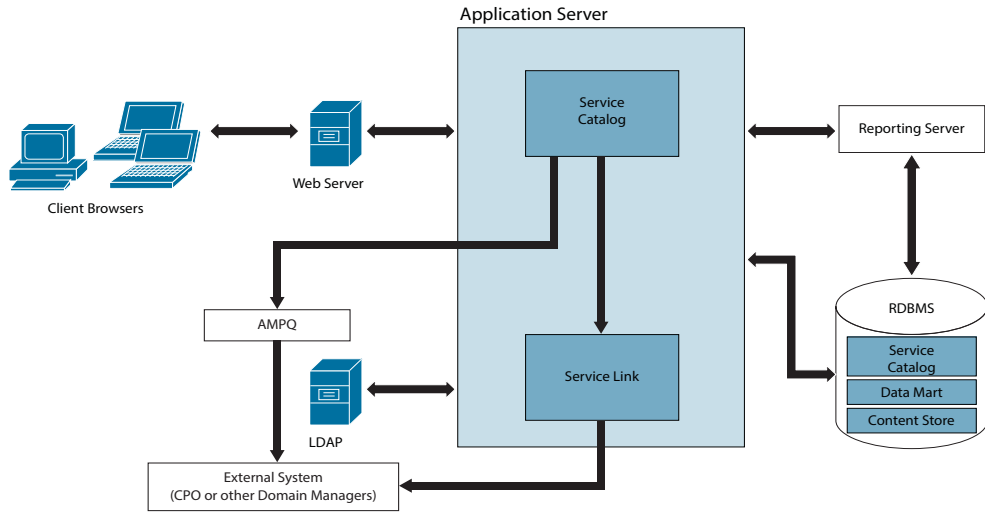
11.1.1 Virtual Appliance (OVA ファイル) のインストールの詳細については、『[Cisco Prime Service Catalog 11.1.1 Quick Start Guide](#)』を参照してください。

展開トポロジ

Prime Service Catalog は、スタンドアロンまたはクラスタ モードで設定できます。

- スタンドアロン モード: WildFly または WebLogic のスタンドアロン モードにおいて Prime Service Catalog には、標準とカスタムの 2 種類のインストール タイプがあります。標準インストールでは、デフォルト設定の適用によりインストールが効率的に実行されます。カスタム オプションを使用すると、Service Catalog コンポーネント アプリケーションまたは Service Link コンポーネント アプリケーションのいずれかだけをインストールするか、または Service Catalog コンポーネント アプリケーションと Service Link コンポーネント アプリケーションの両方を同じコンピュータにインストールするかを選択できます。

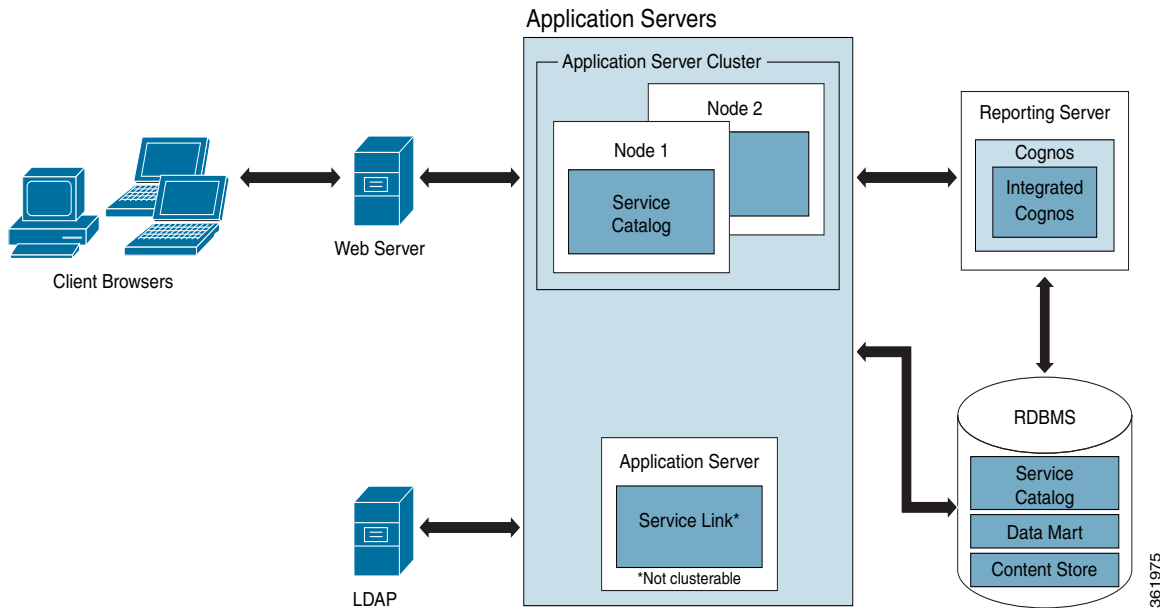
図 1-1 標準トポロジ[ひょうじゅんとぼろじ]



• クラスタ モード :

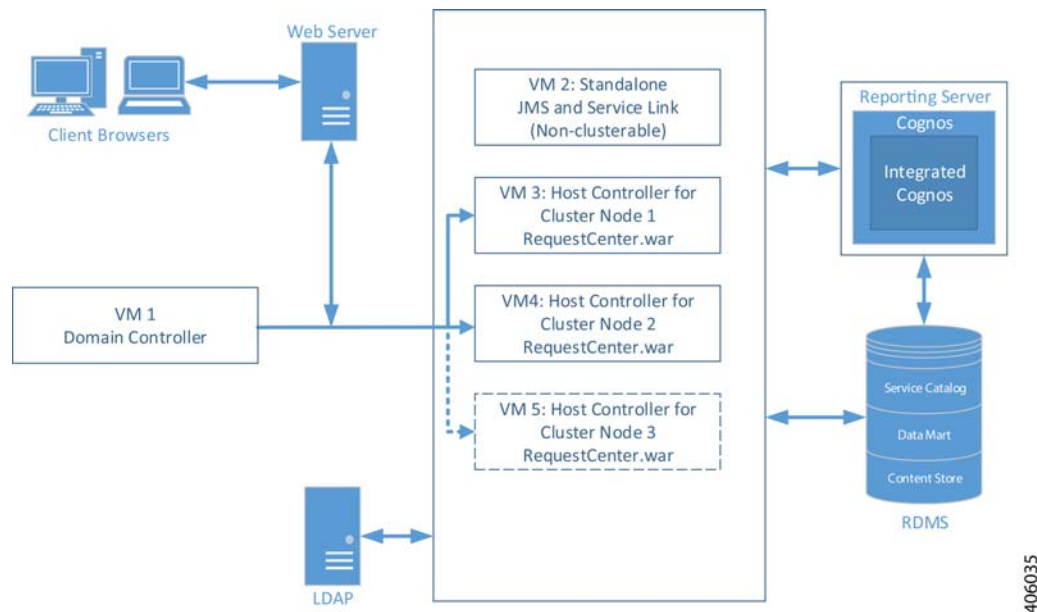
- WebLogic のクラスタ環境では、トポロジ内に複数台のアプリケーション サーバマシンを配置することができます。次の図は、Service Catalog コンポーネント アプリケーションがインストールされている 2 つのノードと、Service Link コンポーネント アプリケーションがインストールされている 1 つのノードで構成されるアプリケーション サーバ クラスタの例を示します。

図 1-2 クラスタトポロジ[くらすたとぼろじ]



- WildFly クラスタ環境では、使用可能なトポロジは2 VM トポロジと4 VM トポロジです。次の図は、Service Catalog コンポーネント アプリケーションがインストールされている2つのノード、ドメインコントローラがインストールされている1つのノード、および Service Link コンポーネント アプリケーションがインストールされている1つのノードで構成されるアプリケーション サーバ クラスタを持つ4 VM トポロジの例を示します。
 - VM1 にはドメイン コントローラのみがあります。
 - VM2 には Service Link および JMS サーバがあります。
 - VM3 は Service Catalog のホスト 1 です。
 - VM4 は Service Catalog のホスト 2 です。

図 1-3 WildFly の4 VM トポロジ



次の図は、WildFly クラスタ構成の2つの水平ノード（つまり、2つの個別のホスト）がある2 VM トポロジの例を示します。一方のノードに Service Catalog コンポーネント アプリケーションが含まれ、もう一方のノードにドメイン コントローラ、Service Link コンポーネント アプリケーション、および Service Catalog コンポーネント アプリケーションが含まれます。

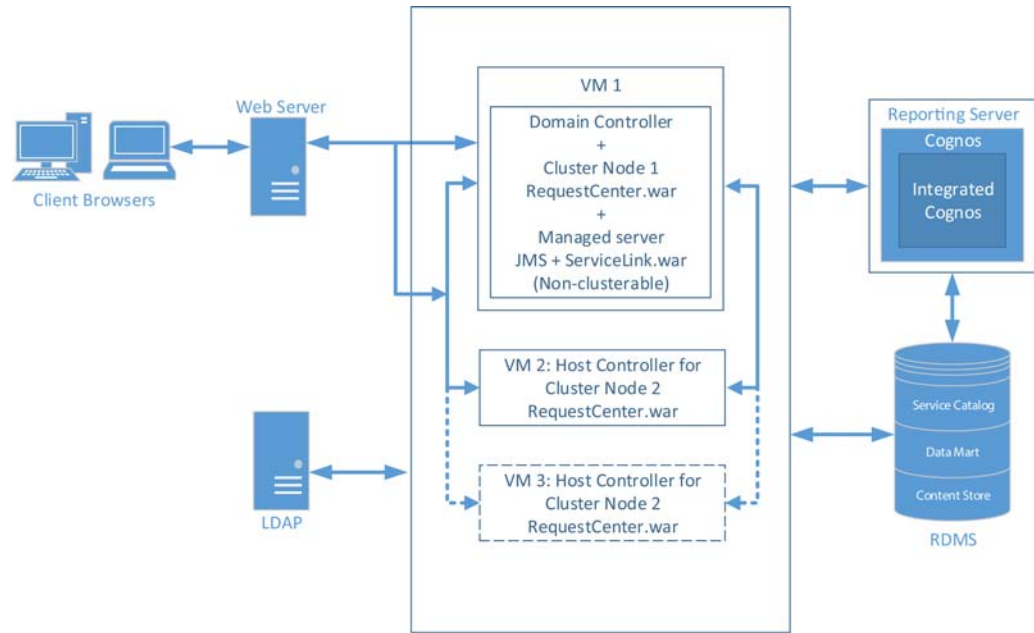
2 ノード クラスタから始めて、必要に応じてクラスタにノード（つまり、ホスト）を追加できます。



(注)

Prime Service Catalog インストーラは、最大4ノードのクラスタをサポートします。5番目のノードを追加したい場合は、後続のホスト ノード (VM5) の手動での WildFly クラスタへの追加を参照してください。

図 1-4 WildFly の 2 VM トポロジ



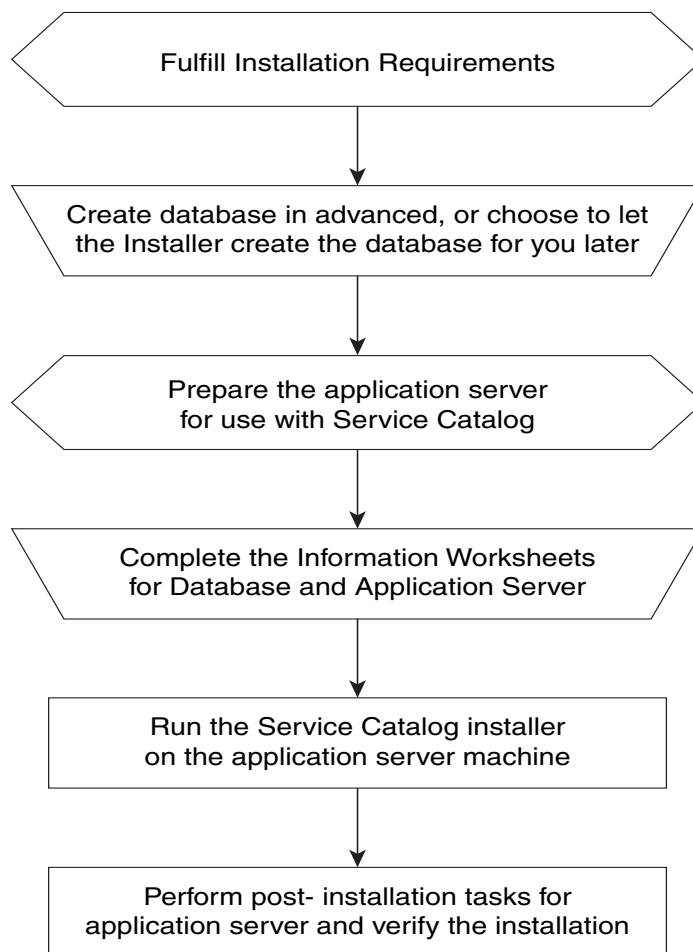
406036

次の章では、標準展開トポロジのソフトウェア要件とハードウェア要件について説明します。

全体的なインストールの流れ

次のフローチャートは Prime Service Catalog の全体的なインストールの流れを示します。

図 1-5 共通のインストール手順



364203

全体的なインストールの概要

この項では、Prime Service Catalog のインストールプロセスのロード マップを説明します。

-
- ステップ : 1** [インストール要件](#)の説明に従い、ハードウェアおよびソフトウェアの最小要件に適切に対応しており、前提条件ソフトウェアがインストールされていることを確認します。
- ステップ : 2** [Service Catalog データベースの設定](#)の説明に従って Service Catalog データベースを作成し、[データベース情報ワークシート](#)に記入します。この情報は、Prime Service Catalog インストールウィザードの実行時に必要となります。
- ステップ : 3** 次のいずれかの項で説明する手順に従って、Prime Service Catalog で使用するアプリケーションサーバを準備します。
- a. WildFly については[インストール前の作業 : WildFly](#)を参照してください。
 - b. WebLogic については[インストール前の設定 : WebLogic](#)を参照してください。
- [ワークシート](#)の項の説明に従い、該当する「アプリケーション サーバ情報ワークシート」に記入します。この情報は、Prime Service Catalog インストールウィザードの実行時に必要となります。
- ステップ : 4** [WebLogic アプリケーション サーバでの Prime Service Catalog のインストール](#)または [WildFly アプリケーション サーバでの Prime Service Catalog のインストール](#)に記載されている手順に従って、アプリケーション サーバ マシン上で Prime Service Catalog インストーラを実行します。以前のリリースからのアップグレード インストールを実行する場合は、この項と併せて [Prime Service Catalog のアップグレード](#)も参照してください。
- ステップ : 5** アプリケーション サーバのインストール後の作業を行い、次のいずれかの項の説明に従ってインストールした内容を確認します。
- a. WildFly については [WildFly のインストール後の作業](#)を参照してください。
 - b. WebLogic については[インストール後の設定 : WebLogic](#)を参照してください。
- ステップ : 6** Reporting の機能を有効にするには、Reporting ソフトウェア モジュールおよび Cognos ソフトウェアをインストールし、さらに Cognos サーバを Prime Service Catalog アプリケーションと統合するための設定を行う必要もあります。この作業ができる状態になったら、[Reporting モジュールのインストールとアップグレード](#)の手順に従って作業してください。
-